

SSH 実施報告書の原稿作成に関する打合せ

分担と注意点

- ・学年ごとに担当者が原稿を作成してください。
- ・参加した生徒の人数も記入してください。
- ・複数学年の行事の場合、行事の担当者が、学年ごとに人数を記入してください。
- ・学年によって異なる傾向が見られた場合は、必ず分析してください。
- ・新たに原稿を依頼する場合があります（行事・発表など）。
- ・開発した教材の実物を、根拠としてご提出ください。⇒Web(<http://seika.ssh.kobe-hs.org/> 等)で公開

今後の日程など

- ・報告書提出依頼は2月中旬に届くと思われる。200ページ以内、提出締切は3月26日(火)必着か。
⇒ 変更点があれば、速やかに連絡します。
- ・印刷所への出稿が3月12日(火)頃だが、データの処理・分析と報告書の作成にも時間がかかる。
- ・原稿締切 2/28(木) ⇒ 3/1(金)集計開始。
- ・参考資料（昨年度までの原稿等）の場所：共有フォルダ¥総合理学部¥2012 年度 SSH 評価(報告書)
- ・原稿テンプレート：上記のフォルダ内に置きます。
- ・原稿の提出先：上記のフォルダ内に作成します。根拠となるファイルも入れてください。
 - ※ 根拠ファイル等が「Web などで公開してはいけない」場合は、ご連絡ください。
 - ※ 提出いただいたファイル(特に表)を再編集する場合があります。ご了承ください。
- ・原稿テンプレート：上記のフォルダ内に置きます。
 - ※ 古いテンプレートだと、形式が異なる、ワードのバグがとりついている等の問題があるので、編集時に「書式なしコピー」等も多用しながら、昨年か今年のテンプレートをお使いください。

以下、文科省「平成23年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書の提出について」から抜粋

（３）「報告書の本文」

単に取り組んだ事実や感想を記述するものではないので、作成にあたっては、十分に注意すること。

①「研究開発の課題」について

研究開発課題に対応して当該学校で設定した研究のねらいや目標、研究開発の内容（以下、「研究テーマ」とする）ごとにその実践及び実践の結果の概要について簡潔に記述すること。

②「研究開発の経緯」について

研究テーマごとに研究開発の状況について、研究の時間的経過にしたがって記述する。

③「研究開発の内容」について

- 研究テーマごとに「仮説」の欄を設け、「仮説」には、研究開発課題（指定の際に提出した実施計画書と同じ研究開発課題）で示した課題を解明するために学校として設定した仮説等を記入すること。
- 研究テーマごとに「研究内容・方法・検証」の欄を設け、「研究内容・方法・検証」には、教育課程編成上の位置づけを明記の上、a で述べた仮説を検証するために行った研究内容を具体的かつ明確にし、どのような手段や方法（指導方法の工夫や授業改善、教材開発、大学や研究機関との連携、科学部等

の課外活動の取組等)により、どのような成果が出たのか、また成果を検証するために用いた具体的な方法等について記入すること。

- c. 本 SSH は、科学技術・理科、数学教育に関する教育課程等の改善に資する実証的資料を得るため、理数系教育に関する教育課程等に関する研究開発を行うことを趣旨としている。そこで研究開発内容を具体的かつ明確にする観点から、教育課程の編成(教科・科目の教育内容の構成及び単位数等)や指導方法等(授業の形態、授業時間の運用、実施規模等)については、対象学年を明記の上、現状をどのように分析し、どのような手段や方法により、どのような取組を行ったか、また、それは適切であったか等について各研究テーマごとに具体的に記述すること。
- d. 学習指導要領に示す教育課程の基準を変更した場合は、その理由(研究開発のために変更することが必要である理由、従来の科目では困難である理由等)や、設けた特例の内容(単位数の増減等を含む)、その成果について具体的に記述すること。また、学校設定教科・科目を設けた場合は、その目標、内容等を学習指導要領の記述にならって明記するとともに、必ず年間指導計画を記載し、既存の教科・科目とどのような関連付けを図ったかを明記するなど教育課程上の位置付けについて記述すること。なお、単位数を増減した科目については、増やした内容や減らした内容を記述するとともに、必修科目の単位数を減らしている場合は、それに相当する内容をどの科目のどのような内容で代替したのかを具体的に記述すること。
- e. その他研究開発に当たって配慮した事項や問題点を、その理由や結論に至る過程を示しながらできるだけ具体的に記述する。

④「実施の効果とその評価」について

研究開発の実施の結果、生徒、教職員、保護者等への効果や学校運営への効果としてどのようなものが現れたか等について、可能な限り数値や客観的なデータを盛り込み(過去の状況との比較データも適宜用いる)、資料・根拠に基づいて、運営指導委員会等における検証なども活用しながら、適切に評価を行い、その結果を記述する。成果を検証した具体的な方法も記述すること。また、副次的な効果や望ましくない影響が生じた場合も同様とする。学校独自のデータや視点なども適宜用いて評価を記述すること。

⑤「研究開発実施上の課題及び今後の研究開発の方向・成果の普及」について

○平成~~19~~20年度指定校及び~~23~~24年度に終了する経過措置校

平成~~23~~24年度の研究開発に取り組んだ過程で生じてきた問題点及び今後の課題とその改善策について記述するだけでなく指定された期間の研究開発での問題点や今後の課題、それらを踏まえての改善策等を記述し、今後の研究成果の普及について総括し記述すること。

(4)「関係資料」

平成23年度の教育課程表(S SHの対象となる生徒分については全て掲載すること。また、教育課程表中のS SHの研究開発に係る箇所が分かるようにすること)、研究開発の分析の基礎資料となったデータ、自校の取組を紹介した資料など参考となる資料を掲載すること。(必要に応じ、本文に随時挿入してもかまわない。)その際、掲載する資料等の著作権の扱いについては、著作権法等の関係法令に基づき適切に取り扱うこと。

また、運営指導委員会の記録は、ここに必ず添付すること。